

文理連接から創起する新しい化学のかたち

(慶應大経) ○井奥 洪二

New Styles of Chemistry Created from the Connection of Humanities and Sciences
(Faculty of Economics, Keio University) ○Koji Ioku

While chemistry has enriched people's lives, it has also been deeply involved in problems such as war and environmental destruction. We are now faced with the need to seriously reexamine what it means to live a peaceful and prosperous life. We need to create a "new styles of chemistry" that is rich in diversity and considers the harmony between people and the earth, rather than being bound by a single value consciousness that pursues economic and material wealth.

In this study, the author will organize chemistry and society from the perspective of the connection between humanities and sciences, then consider "new styles of chemistry" and "new styles of life."

Keywords : Humanity; Science; New Normal

化学は、人々の生活を豊かにしてきた一方で、戦争や環境破壊などの問題と深く関わってきた。我々は、平和で豊かな生活について真剣に見つめ直す必要に迫られている。経済的、物質的豊かさを追求する単一の価値意識に縛られず、多様性に富み、人と地球の調和を考えた価値観を見出し「新しい化学のかたち」を生み出す必要がある。

日本は、エコテクノロジーの先進国である。しかし、省エネ家電が売り出されると、人々は省エネなので安心して過剰に購入してしまい、国全体として省エネ効果が認めがたいというエコジレンマに陥ってしまった¹⁾。さらに、東日本大震災²⁾や新型コロナウイルス感染症のパンデミック³⁾によって化学を含む科学技術の進展だけでは、次世代に安心して手渡せる世界を作れそうもないこと、その一方では、科学技術なくしては、未来を創造できないであろうことにも気付かされた。釈然としないこのような問題を解決する鍵は、いったいどこにあるのだろうか。

本研究では、化学と社会を文理連接の観点から整理し、「新しい化学のかたち」と「新しいくらしのかたち」について考察する。新しい化学のかたちについての社会教育ならびに社会による理解の増進を目指す。

1) 土場 学, 社会的ジレンマとしての環境問題再考ー公共的モデルとしての社会的ジレンマ・モデルー, 環境社会学研究, 13, 94-107 (2007).

2) 気象庁, 気象庁技術報告 平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震調査報告, [133], 1-479 (2012), ISSN 0447-3868

3) 井奥洪二, COVID-19 パンデミックからのリカバリーに向けて, セラミックス, 56 [4], 217-221 (2021).